

## 課題情報シート

テーマ名 :	沖縄の物流と貿易の現状と今後				
担当指導員名 :	井上 昭正	実施年度 :	25 年度		
施設名 :	沖縄職業能力開発大学校				
課程名 :	専門課程	訓練科名 :	物流情報科		
課題の区分 :	総合制作実習課題	学生数 :	3	時間 :	12 単位 (216h)

### 課題制作・開発のポイント

#### 【開発（制作）のポイント】

日本において、アベノミクスや TPP 交渉参加の影響により、国際物流や貿易を取り巻く状況が変化しています。沖縄県では独自の国際物流や貿易を展開している状況があり、経済特区沖縄における国際物流拠点産業集積地域等の特別な取組もなされている注目されています。

#### 【訓練（指導）のポイント】

物流情報科において総合製作実習のテーマに「沖縄の物流と貿易の現状と今後」を取り上げることにしました。このテーマを通し学生に「沖縄の物流と貿易」の知識について、文献、インターネット等での情報収集だけでなく、実際に税関や企業等でのヒヤリング調査を行い「沖縄の物流と貿易」についての総合的な知識を習得させたいと思います。

### 課題に関する問い合わせ先

施設名 : 沖縄職業能力開発大学校  
住所 : 〒904-2141 沖縄県沖縄市池原 2994-2  
電話番号 : 098-934-6282 (代表)  
施設 Web アドレス : <http://www3.jeed.or.jp/okinawa/college/>

### 課題制作・開発の「予稿」および「テーマ設定シート」

次のページ以降に、本課題の「予稿」および「テーマ設定シート」を掲載しています。

# 沖縄の物流と貿易の現状と今後

沖縄職業能力開発大学校（物流情報科）

## 1. はじめに

近年、東アジアの中心にある沖縄はその地理的優位性をいかし、国際物流拠点（空港、港湾）におけるインフラ整備や様々な優遇措置を設けた制度が導入されており、国内・外をまたぐ物流活動が活発化している。そこで、沖縄の教育機関で唯一科名に”物流”を掲げる私たちは、物流・貿易の側面から見える沖縄の今後の経済やそこから生まれる様々な可能性について調査した。

が、沖縄県の上位 2 品目は共に石油製品関連である。（表 3）

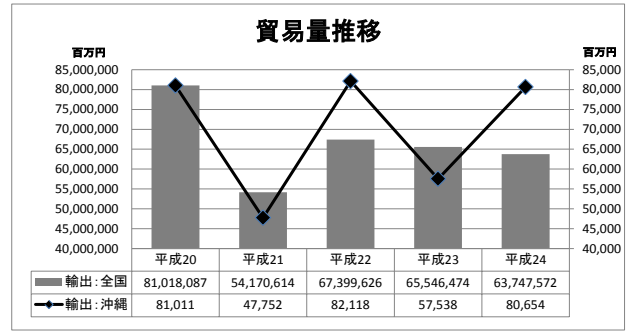


図 1 貿易量推移

## 2. 沖縄県のインフラ整備・制度改革

沖縄県に対しては、表 1 に示すとおり沖縄振興計画が策定されており、これまでも物流や貿易に関するインフラ整備・制度改革がなされており、今後も実施される予定である。（表 1）

表 2 輸出貿易相手国 (平成 24 年)

順位	全国	沖縄
1位	中国	韓国
2位	アメリカ	ブラジル
3位	韓国	マレーシア
4位	台湾	中国
5位	タイ	シンガポール

表 1 沖縄県の物流・貿易に関する大きな動き

年/月	出来事
平成4	第3次沖縄振興開発計画(～平成13年)
平成11/3	国際物流拠点産業集積地域創設
平成18	県産品海外展開戦略構築事業(～平成19年)
平成19/6	ANA沖縄貨物ハブ構想 表明
平成20	県産品海外販路拡大ネットワーク構築支援事業(～平成21年)
平成21/9	新貨物ターミナルビル 完成
平成21/10	ANA沖縄貨物ハブ供用開始
平成24/11	ヤマト運輸のANAハブを利用した国際宅急便事業
平成25/01	楽天のANAハブとヤマト運輸を利用したネット通販開始
平成25/08	ANAハブ 新たに中部国際と青島の2路線施設
平成26/01	那覇空港第2滑走路 着工予定
平成26/01	国際物流拠点産業集積地域那覇地区へ総合物流センター建設着手
平成26/02	新国際線旅客ターミナル供用予定

これは、沖縄県にある原油備蓄基地が関係し、石油製品としてブラジル・マレーシアへ、原油を再輸出品として韓国・中国へ輸出しているためである。

表 3 輸出品目 (平成 24 年)

順位	全国	沖縄
1位	自動車	石油製品
2位	鉄鋼	再輸出品(原粗油)
3位	半導体等電子部品	金属鋳及びくず
4位	自動車の部分品	魚介類及び同調整品
5位	原動機	パルプ及び古紙

## 3. 沖縄県の貿易統計の分析

日本全体と沖縄県の貿易統計を比較すると、輸出货量推移傾向や輸出相手国が異なっている。（図 1、表 2）これは、輸出品目に大きな関係がある。自動車産業が盛んな日本全体では、上位を自動車やその部品の輸送用機器が占めている

## 4. 沖縄県の航空貨物統計の分析

那覇空港の航空貨物取扱量は、まだまだ上位 2 つの空港との差は大きい、滑走路を一本しか持たない空港としては最も多い(図 2)。

長年増加傾向であった日本全体の国際航空貨物輸送量は、平成 20 年に起きたリーマンショック

クや、平成 23 年に起きた東日本大震災の影響により、近年減少傾向で伸び悩んでいる。しかし、那覇空港の航空貨物取扱量は平成 21 年 10 月の ANA の貨物ハブ事業がスタート以後着実に増加している。

図 2 那覇空港貨物取扱量推移

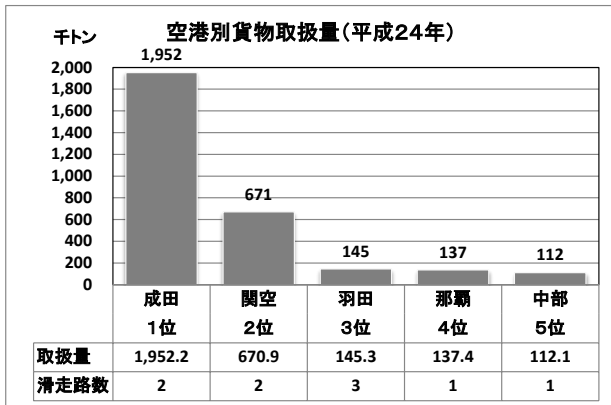
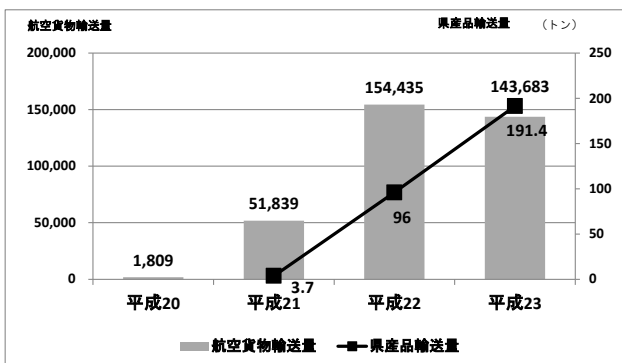


図 3 那覇空港貨物取扱量と県産品輸出量の推移



那覇空港は、国内・アジアの主要都市を 4 時間圏内でカバーする地理的優位性や、24 時間運用体制であるメリット等を生かし、全国企業のアジア向け物流拠点としての役割を果たしつつある。

しかし、平成 24 年度的那覇空港貨物取扱量の内訳を見ると、那覇空港で積込まれた貨物量 65,555 トンのうち、沖縄県産品の輸出量は 541 トンで 1%にも満たないことがわかる。(表 4)

表 4 那覇空港貨物取扱量 (平成 24 年)

年	積込量		取卸量		
	輸出	通過	輸入	通過	
平成24	541	65,014	71,797	4,338	67,459

## 5. 今後の課題と展望

沖縄県の貿易・物流の今後の課題としては、「アジアの国際物流拠点としての沖縄貨物ハブ機能の充実」と「沖縄県産品等の輸出拡大」の 2 点の事柄をいかに達成するかにある。そのためには、以下のような「沖縄」というブランドをいかに PR し浸透させていくか、その仕掛けづくりが有用であると考えられる。

- ・航空貨物に係る租税公課の軽減措置の拡充
- ・リード・タイムの短縮や国際保冷宅配ネットワークの確立により、日本発東アジアへの農水産物の輸出拠点となる
- ・国際トランジット型のシー・アンド・エア輸送を確立する
- ・地震が少ない地理的優位性から緊急物資や精密機器部品等の備蓄拠点となる
- ・長寿県沖縄として日本食とはまた違った健康食を PR する
- ・県外・国外の最終加工拠点としての製造業を誘致する

□ 大型クルーズ客船の誘致等により、沖縄県への外国人観光客を増加させて、県産品輸出につなげる

## 6. おわりに

本調査により、沖縄県の物流・貿易についての地理的条件、輸出品目等の現状を把握することができた。また、企業の沖縄貨物ハブへの参入や、企業誘致、沖縄県産品の輸出増加などの課題や今後の発展の可能性も理解できた。卒業後は物流業界へと進むことから、これからの沖縄県の貿易・物流の発展に貢献していきたい。

### 参考文献

- 沖縄地区税関 : <http://www.customs.go.jp/okinawa/>  
 沖縄国際物流ハブ : <http://okinawahub.com/>  
 ANA CARGO : <http://www.ana.co.jp/cargo/>  
 沖縄石油基地株式会社 : <http://octs.co.jp/>  
 沖縄大交易会プレ交易会 : <http://www.okinawa-congre.co.jp/>

# 課題実習「テーマ設定シート」

作成日：5月9日

科名：物流情報科

教科の科目		実習テーマ名	
総合制作実習		沖縄の物流と貿易の現状と今後	
担当教員		担当学生	
○物流情報科・井上 昭正			
課題実習の技能・技術習得目標			
基本的な輸出入貿易業務を踏まえた上で理解し、特色のある沖縄県の国際物流や貿易についての現状、メリット・デメリットを調査することで理解を深め、今後の方策を整理して、独自の提言をまとめることを目標とする。			
実習テーマの設定背景・取組目標			
実習テーマの設定背景			
日本において、アベノミクスやTPP交渉参加の影響により、国際物流や貿易を取り巻く状況が変化している。沖縄県では独自の国際物流や貿易を展開している状況があり、経済特区沖縄における国際物流拠点産業集積地域等の特別な取組もなされている。沖縄の教育機関で唯一科名に”物流”を掲げる「物流情報科」の学生として物流・貿易の側面から見える沖縄の今後の経済やそこから生まれる様々な可能性について調査する。			
実習テーマの特徴・概要			
日本の物流と貿易の現状を調査する。 沖縄の物流と貿易の現状を調査する。 税関や企業へのヒヤリングにより沖縄の物流と貿易のメリット・デメリットを調査する。 沖縄の物流・貿易の今後への提言を検討する。			
No	取組目標		
①	調査、学習スケジュールを計画する。		
②	チームで分担や進捗管理について話し合い実行計画を作成する。		
③	日本の物流・貿易の現状を調査する。		
④	税関や企業へ沖縄の物流・貿易に関する聞き取り調査を行う。		
⑤	沖縄の物流・貿易のメリット・デメリットを理解する		
⑥	沖縄の物流・貿易の今後への提言を検討する。		
⑦	進捗状況や、発生した問題等については、担当教員へ報告する。		
⑧	報告書の作成および発表を行う。		